新規開院クリニックに学ぶ

患者さんのための工夫 Pick UP

時代の流れもあるのか、新しいクリニックほど、患者ニーズを設計コンセプトに反映しているところが多いようです。そんな工夫あふれる新規開院クリニックを訪ね、快適な空間づくりのヒントを余すところなくご紹介します。

徹底的に患者の立場で考え抜いたきめ細かい心配りが居心地の良さを生む

心からリラックスできる快適な空間で患者の自然治癒力を効果的に引き出すことをコンセプトに掲げ、平成24年11月に開院した『つかもと整形外科醫院』。昔ながらの商店と住宅が入り交じったのどかな街並みの一角にあり、老若男女のあらゆるニーズに応える地域密着型クリニックだ。ゆったりとした時間が流れる場所を提供したいという思いを持つ塚本理一郎院長は、徹底した患者目線でクリニックをつくりあげた。そのこだわりは、院内を全面バリアフリーにしていることなど目に見える部分から、場所によって照明を使い分けるといった一見気付き難いほどの細部にまでわたる。居心地の良さを実現するため、きめ細やかな心遣いを随所に散りばめているのだ。

アイデアの源は一人の医師父としての経験

なぜここまで行き届いた配慮が可能なのか。その答えは、塚本院長のこれまでの経験が鍵を握っているといえるだろう。例えば、患者が立ち上がりやすいように座面が通常よりも高めの椅子を使用しているのだが、これは開業前に臨床を重ねた医院で、膝や股関節に疾患を持つ患者を数多く診てきたことから生まれた気付きだ。また自身の子育て経験もしかり。子どもは病院で手持ち無沙汰になってしまうことを熟知しているからこそ、キッズルームは知育玩具や育児用具を手がけるボーネルンド社と提携し、子どもの知的探究心を刺激し、夢中になれる遊具を準備した。さらにキッズルームと隣り合ったリハビリ室を全面ガラス窓にしているが、これは小さな子を持つ親は自分の体のことをつい我慢してしまうという実感を踏まえて得たアイデア。医師として、父としての豊かな経験が、「真の患者のニーズ」への理解を確かなものにしている——これこそが患者の心を離さないクリニックづくりの秘訣だろう。

2012.04 OPEN!!

つかもと整形外科醫院
リウマチ科／整形外科
リハビリテーション科
03-5429-4970
東京都世田谷区千歳台 2-14-7
千歳クリニックモール 2F

塚本 理一郎 院長

1998年東京医科大学卒業。厚生中央病院にて4年間臨床経験を積み、米・カリフォルニアのLoma Linda University Medical Centerに留学。湘南鎌倉人工関節センターでの診療を経て、2012年11月開院。

pick up 03 照明を場所により使い分け気持ちの切り替えを促す

診察室は患者の顔色がよくわかるように蛍光灯を、待合室は目に優しいオレンジ色の照明を使用。色に変化をつけることで、患者がめりはりを持って受診できる効果もあるそう

pick up 04 パウダールームも併設されたママと子どもに優しいトイレ

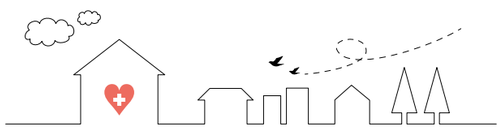
広々としたトイレには、おむつ交換台やベビーチェアが設置されているので子ども連れでも安心。隣にはパウダールームが併設されており、リハビリ後にメーク直しもできる

pick up 05 スタッフは家族同様仲の良さが活気ある院内をつくる

比較的年齢層が低く、元気な人が多いというスタッフ陣。毎朝のミーティングや毎日交代で行う清掃などを通して、スタッフ間のコミュニケーションは抜群だ。業務外でもよく一緒に食事に行くという仲の良さが、院内の明るい雰囲気づくりに役立っているとか

pick up 01 ボーネルンドと提携した本格的なキッズルームを完備

「あそびのある暮らし」をコンセプトに知育玩具や育児用具を手がけるボーネルンド社と提携して作ったキッズルーム。転んでもケガをしないよう床には弾力のある素材を使用

pick up 02 待合室の椅子には出し入れ可能な杖立てを設置

一般的なものよりも座面が5cm程度高いという待合室の椅子。これなら、膝や股関節に疾患を持つ患者でも立ち上がりやすい。肘かけには特注の杖立ても備えつけられている